

# 狂言綺語2011

## ■平成 23 年 1 月 5 日

君に聞きたい。八俣遠呂智、天叢雲剣、たたら、築地松、そして宍道湖七珍を、君は知っているかい。これは、島根県の横田から宍道湖に注ぐ斐伊川にちなんだ名称である。この川は神話の舞台であり、製鉄産業の発祥の地でもある。去年まで住んだ松江の宿舎の近くには、素盞鳴尊が八俣遠呂智を退治して櫛稲田姫を救い出して暮らした八重垣神社やたたら豪族の古墳があった。

天叢雲剣は今でも花嫁衣装に欠かすことができないし、たたらは砂鉄で鉄をつくる伝統的な製鉄法で、今もそれによって日本刀の美しい波紋をつくりだしている。築地松は、土手に松を植え洪水と季節風から身を守る斐伊川下流の農家の生活の知恵である。宍道湖は、鱸・もろげ海老・鰻・あまさぎ・白魚・鯉・蜆を首都圏に提供している。石見銀山も平成 19 年に世界遺産に登録された。島根県は、日本文明の発祥の地であり、資源の供給、国土保全、歴史・文化の継承など重要な役割を担っている。

菅直人総理は、新年 4 日に伊勢神宮を参拝した。ここは、素盞鳴尊のお姉さんの天照大御神が祀られているところでもある。そこで総理は、「責任をもって政権を運営する」と神様に誓ったという。

島根県は、去年の暮れから新年にかけて大雪に見舞われた。道路も寸断され、停電も続きそして陸の孤島となった。島根県には、国造りの神でもある素盞鳴尊を祀る八重垣神社とその子孫の大国主神を祀る出雲大社もある。これからの日本の復活を願うなら、島根県の恵まれた自然と文明を帰り見るのもいい。

## ■平成 23 年 2 月 21 日

菅井ものづくり学校は、昨年 12 月 19 日で閉鎖した。学校は、相模原市の藤野町という海拔 500m の山間地にある廃校された旧藤野町立菅井小学校で、健康菜園と地元のアーティストのギャラリーが常設されている。月 1 回のイベントでは、クラフト教室、地産野菜の販売と食事会が開催され、地元のおじちゃん、おばちゃん、そして子供たちの憩いの場所であった。

運営の詳細いことは知る由もないが、大手ゼネコンを退職したおじさんがボランティアで管理していた。健康野菜をはじめ地元で採れた野菜が格安で販売されていたが、地元のおばちゃんをつくる田舎料理が何よりであった。手作りのこんにゃくは、微細な空気が連行されることによって味が良く浸み込むという。子供達には格好の遊び場所で、ここにくると見違えるように活発な子に変身してしまう。地元のおじいちゃん、おばあちゃんは、子供達と 300 円の田舎料理を囲んで元気を呼び戻す。それをボランティアのおじさん、おばさんが温かく見守る光景がそこにある。地域のコミュニティーが自然に形成される。

青森県むつの「隠れかっぱの湯」が今日で廃止されることをテレビで知った。50 年以上にわたって、地元の多くの人々を癒してきた小さな露天風呂が解体されてしまった。報道だけではその理由を知ることができないが、地域の大切なコミュニティーを 1 日にして失ってしまったことだけは確かである。

いま「社会保障と財源」が国会で審議されている。一方では、わずかな財源を基にして社会に貢献したいという元気な高齢者は多くいる。それらの人は行政と国民との仲介役としての重要な役割を担っている。介護施設も重要だけど、社会に貢献しようとする人間力を利用しない手はない。もし、これらのことが一部の村八分によって抑制されているとしたら甚だ不愉快である。バーチャルな組織を許容しない国民性も気になる。

## ■ 平成 23 年 3 月 15 日

被災した方々、被災地に対して何も手助けしてあげられないことが悔しい。TV 報道を見てただただぼう然としている。生命の危機に直面している方々もまだ沢山いる。生きる希望を捨てないで、今は生きることだけに極限の力を発揮してほしい。避難をしている方々そして救助に対応している方々には、全ての私欲、邪心を捨て、先のことは考えず、いま起きていることだけに最大限の対応をお願いしたい。

生命の危機に直面している方々の捜索・救助をまだあきらめないでほしい。孤立している方々の把握と空からの援助をしてほしい。食糧、物資の供給をできるところから迅速にしてほしい。海からの支援、道路の確保も並行して進めてほしい。泥臭くていいから一次情報を迅速に伝達できるようにしてほしい。

私は、被災した地域において福島原子力発電所をはじめ、その関連施設、火力発電所など多くの建設工事に関与した。福島第 1 原発 2 号機は入社後初めての原発業務である。何とか被害が最小限に納まってほしい。先端で対応している方々のマニュアルを超えた極限の技術力に期待したい。女川原子力発電所のある町は壊滅状態である。いわき市の勿来火力発電所の町も大きな被害を受けた。

東京では計画停電のために買占めに走って混乱しているけれど、こんなものは被災した方々のことを考えると比較の対象にもならないし、甚だ不愉快である。下北半島から茨城までの約 700km の範囲には公私ともにお世話になった多くの知人、宮古には親類もいるけれど、その消息は不明である。きっと、最先端で危機回避・救助・支援活動に専念しているのだろう。この災害が fiction であることを願っている

## ■ 平成 23 年 4 月 22 日

我々は、これまで大量生産、大量消費、大量廃棄の社会経済システムにどっぷりとつかった生活を送ってきた。世界中からあらゆる資源を求め、何の疑問も持たずグローバル化と効率化のみを追い続け生産活動を続けてきた。東日本大震災に遭遇した地域は、首都圏への食糧、エネルギー、人的資源の供給と歴史文化や国土保全に貢献してきた。

特に、原子力発電所は、首都圏の電力の 30% を供給し、日本の経済成長に貢献してきたことも事実である。しかし、今回の東日本大震災は、その経済活動を一瞬のうちに停止してしまった。自然界に無い物質を作り出した人間社会を自然界の津波が一瞬のうちに破壊してしまった。何と皮肉な現象であろうか。戦後の復興の成功にうつつを抜かし、ぬるま湯にどっぷりとつかった我々に対する自然界のお仕置きなのかもしれない。原子力学者の言葉も、この有事に対しては無力感しか伝わってこない。「原子力災害も飛行機事故と同じである」と聞き直ってもらっては困る。私もハイジャックに遭遇した身であるけれど、何十年、何百年以上にもわたって影響を与え人類や地球の存続まで危うくする原発事故と飛行機事故とは比較の対象にならないことを認識すべきである。危機を回避できない原子力発電の継続はもう無理であろう。

ソフトバンクの孫正義社長は、被災地に対して 100 億円を寄付した。その上、自然エネルギーの普及を促進するために「自然エネルギー財団」の設置を発表した。東日本大震災の被災地域を中心に「東日本ソーラーベルト」をつくる構想である。災害復旧の政府の対応に何かと不安感を抱いていただけに、何か新しい兆しが見えてきたような気がする。

被災地で必死に復旧に努力している方々に甚だ不謹慎だけれど、これを契機にこれまでの社会経済システムを大きく変換しなければならない。資源の調達、生産活動、住環境および教育も含め、効率化のみのマニュアル社会からの脱出が急務である。今度こそ、自然環境ポテンシャルの積極的な活用に期待したい。

## ■ 平成 23 年 7 月 9 日

いったいこの国は、どうなってしまったのだろうか。首相、閣僚に罵声を浴びせて攻撃する。答弁するほうもするほうで、人を誑かすような言語を使うものだから全く信頼されない。しばしば、モンスターペアレ

ントもどきのおじさんお婆さんが委員長席にあつまり審議が中断する。これが最近の国会審議の様子である。とうていこいつ等（失礼！この方々）に最近の小・中学校の学級崩壊などを指摘してもらいたくない。

東日本大震災をきっかけに自然環境ポテンシャルを利用した再生可能エネルギーへの変換機運が高まりつつあるが、陰険でサギ、ペテン師まがいのリーダーの行動によってそれが逆効果になるのを恐れる。我が国のエネルギー問題は、これまで国民の思想までを左右してきた。これによって日本人としての心を失ったことも多くある。今度こそは、エネルギー問題を政治的に利用しないでほしいものである。

これまで、太陽電池、水力、燃料電池などの再生可能エネルギーの業務に携わったことがあるけれど、それぞれ一長一短があって一筋縄ではいかない。しかし、それぞれの固有の問題点を見つけ出すことができれば科学的に容易にそれを解決することが可能であり、適材適所で普及できるものを開発することもできるはずである。

島根県と鳥取県には風力発電の風車が多くあった。しかし、風力発電の風車だけは好きになることができなかった。海岸、山間そして道路沿いに乱立しているが、その大きな不細工な羽根は、美しくもないし、社会生活を崩壊するような恐怖さへ感じる。現在の風車は、再生可能エネルギーの仲間かもしれないが、自然環境を破壊し、カラスさえ寄り付かなくなっている。カラスは朝に都市へ出て残飯を喰い、夜に山に帰って子供を育てながら樹木の成長に役立っているという。循環社会には欠かせない動物らしい。だから、できるだけ早い時期にこの風車に打ち勝てるドン・キホーテが現れることを願っている。

#### ■ 平成 23 年 7 月 14 日

このところめっきり空想にとりつかれている。決して年老いたせいでもないし、前頭葉に異常を生じた自覚もない。3.11 の東日本大震災で原子力発電所の強固な鉄筋コンクリート壁が水素爆発でいとも簡単に崩壊してしまった。コンクリート自体は放射性物質の飛散と違って何ら人類に害を与えるものではないが、あまりにも悲惨な現象を見せつけられたために、まだ現実を受け入れられる状況にはない。

特に、原子力エネルギー技術はイデオロギーで推進されてきたために、それに対応する技術者は自分の信念と矛盾する行動に陥りやすい。同じ技術者として同情できないこともないが、失敗を許されない状況に自らを追い込んでしまった責任は重い。最悪の事態を回避できず、使用済み燃料の処理技術や高速増殖炉技術の見通しもない状況も公になった。これでは、原発の存続も新設も望めない。危機回避に向けて、著しく進歩した情報処理分野や生物分野などの周辺技術との連携を図り、謙虚な気持ちで 100 年先を見据えた対応をしていただきたい。

私は、最近になってドライバーの飛距離がめっきりのびるようになった。別にこの年になって体力がついたわけでもなく、道具を替えたわけでもない。煩わしい業務から解放され、ただただ無心にクラブを振る訓練をしているだけである。だから、この大震災の影響で、遺伝子が突然に進化したのかもしれない。

最近になって著しく進歩した遺伝子工学は今回の事象を近い将来に解決してくれる。積算人間力量(体力、知力、誠実、謙虚、勇気など人間の基本的な能力を科学的に評価した無次元化された値)が 65 年相当の値を誠実に達成した人間に限って、放射線量が多い環境条件下で遺伝子組換えが容易になり、人間の能力をスマートフォンでカスタマイズできるようなことが今世紀中に可能となる。その結果、若者は積算人間力量を獲得するために業務に専念するようになるだろうし、積算人間力量を達成した年寄りはいもう一度人生をやり直すことや終焉を選択することも可能となる。ただ、高度の情報技術を駆使できない人は不幸になるかもしれない。そして、いつの時代になっても人間の豊かさを左右するのは永遠に進歩のない政治である。

#### ■ 平成 23 年 7 月 25 日

今回の東日本大震災によって、疑心暗鬼になっている。戦後のどさくさの中でGHQ主導の義務教育を受け、日米安全保障条約、企業労使紛争、大学改革紛争そして経済大国となる歴史の中で過ごしてきた。しか

し、この大震災に遭遇し、自分のこれまでの人生が一瞬のうちに崩壊してしまった。

科学技術の中でも建築という工学分野で研究・実務・教育と 40 年余りにわたって過ごしてきた。しかし、今回の原子力発電所の崩壊事故によって、自分の携わってきた工学分野は、純粋な科学分野と異なっかなり政治やイデオロギーに支配されてきたことを改めて認識せざるを得ない。工学分野では、「ニュートン力学」はもちろんのこと「CO<sub>2</sub>の増加⇒温暖化」、「原子力安全工学」そしてグローバル化、工業化、合理化などまでも何の疑いもなく定理とし、欧米方式の論理で業務や技術開発を遂行してきた。しかし、ニュートン力学以外はもう信頼する価値はない。

最近、あらゆる分野で「アンケート調査」がはびこっている。情報処理技術が進歩し、多変量解析など統計処理ソフトが準備され誰でもが簡単にパソコンで処理できるようになった。しかし、現象に対して科学的根拠のない要因が影響しているごとき間違いを犯す危険があり、その間違いに気付かずに発表されている学術論文も多く見かける。そして、その結果を、科学的に検証されているとあって、メディアや政治に利用されているからたまったものではない。

本物の技術は、技術者個人の能力に依存するところが大きく、多数決によって認められるものではない。文科省の科学研究費も実績主義で化石的な研究に配分され、新規性のある研究に目を向けない。また、グローバル化の名のもとに世界標準に対して妥協することも強要される。我が国の伝統・文化に育まれた固有の技術開発方式が復興されることを期待したい。私は、神仏習合・攘夷論者である。

#### ■ 平成 23 年 7 月 28 日

地上デジタル化に伴って、アナログ TV のブラウン管の処理先をコンクリートに向けられたことにかかなりの憤りを感じている。「ブラウン管ガラスで放射線遮蔽」との（独法）物質材料研究機構の新聞発表である。その中で、ブラウン管ガラス片をコンクリートに混ぜると遮蔽効果が高まるという。

コンクリートは、現在でもそれ自身で遮蔽効果があることが科学的に証明されている。コンクリートは主に SiO<sub>2</sub>、CaO、Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub> の 3 成分で構成され全く土と同じ成分であり、何ら人体に影響を及ぼさない。しかし、鉛を含んだブラウン管ガラス片をコンクリートに混ぜると、いずれその鉛が溶出して土壌汚染、地下水汚染として公害を拡散することになる。コンクリートは素人でも固まると思っているのだろうが、こればかりはそんなわけにはいかない。きっと、コンクリートが 1 年もたたないうちにひび割れが発生して崩壊してしまうだろう。

東日本大震災前までは、CO<sub>2</sub>削減、リユース、リサイクルを定理として、技術開発を行ってきた。それが私の研究・教育業績のかかなりの量を占めている。それが、原子力発電所の崩壊事故で一瞬のうちに否定されてしまった。私の人生はあまりにも理不尽である。

環境をビジネスとしている企業もめっきり多くなった。しかし、その理念が科学的根拠に乏しく、ほとんどがいかかわしい宗教的と思われるものも多々ある。これで世界の経済システムが左右されているとしたら甚だ不愉快である。ブラウン管ガラス片をコンクリートに混ぜることは、極めて危険なことであることは科学的に証明できる。それよりも、焼却してその灰から我が国の世界一の精錬技術によって鉛を抽出すべきである。このブラウン管混入に対応するコンクリート研究者が現れないことを望むものである。

#### ■ 平成 23 年 8 月 20 日

先日、元教員の震災復旧支援のために学生とともに陸前高田に行った。ボランティアの宿泊施設の元小学校の体育館に泊まることになった。消灯時間が決まっていた夜 10 時には、強制的に消灯される。消灯とともに就寝となるお利口さんもいるが、ほとんどは、グループを形成しそれぞれの暗闇の中での行動が始まる。ボランティア活動の反省会、害虫駆除、延長懇談そしてスハッ、スハッと無声裸族のショウなどがありいつのまにか眠りにつく。

しかし、異民族が宿泊施設に合流されると、それらの行動は全て一変される。モンスターペアレントが出没して、消灯後の静粛を強要される。そのあげくに自己の権利をのうのうと言われるから、「ごもつともです。反省します。」という気持ちも一瞬のうちに吹き飛んでしまう。ちょっとしたことで陰悪なムードとなり、宣戦布告となる。そこでは「ボランティアには寝る権利なんかない！一日二日我慢しろ！」と究極な発言になってしまう。

高速道路のトラックUターン族をいつもメディアで非難している。ボランティアと称して観光バスでビジネスをやっているやつらをいかが評価したらいいのだろうか。道路の側溝の土砂を懸命に除去するボランティア活動をいかが評価していいのだろうか。

今回の東日本大震災で被災した方々は、我々がボランティア宿泊施設で味わった何百倍もの不自由に直面している。そして、ボランティアの方々には、感謝し恐縮する以外の何の気持ちも持ち合わせていない。だから、ボランティアの名のもとに、それに逆なでする行為があってはならない。私は、南部藩を先祖とするから、他藩のものからとやかく言われるのも甚だ不愉快である。

## ■ 平成 23 年 8 月 25 日

震災復興に原子力発電所に替って再生可能エネルギー一辺倒の報道が甚だ不愉快である。復興会議は、住民を高台に追いやり、コンパクトシティー、スマートシティーなどを提案した。この提案は、これまでの首都圏中心の効率化のみを追求してきた経済社会システムの論理と変わるところがない。こんな宇宙ステーションのような提案は、三陸地方には似合わないし、迷惑である。こんな時に、建築家をはじめとする建築界の声が聞こえてこないのは何故なのだろうか。今こそ、建築界の多様な知識・技術を駆使して、三陸地方特有のコミュニティー形成に総合力を発揮してもらいたいものである。

震災の半年前に先祖の出身地である宮古に宿泊し、気仙沼までの三陸海岸をドライブした。海岸の新設の幹線道路はまだつぎはぎだらけで快適に走ることができなかったけれど、そのおかげで、被災前の三陸の食材や景観を楽しむことができた。そこには、山、川、海に恵まれた自然があり、伝統に育まれた人々の生活の知恵を見ることができる。洪水を和らげる田園、海岸の砂防・防潮林、幹線道路沿いの防雪林、津波の避難場所となる神社仏閣などがそれである。高速自動車道は、今回の震災で物資の輸送、住民の避難・救助に威力を発揮したし、そしてそこに位置する日本のものづくりを担う先端産業もいち早く復旧した。

原子力発電所は、最悪の危機を回避する技術が確立するまでは運転・新設することが無理だろう。しかし、このことで原子力の研究者がいなくなってしまうのは困る。まだ、飛散した放射性物質の後始末もやらないし、そして究極のエネルギー技術の開発も必要となる。原子力技術は、100年、200年先を見越して研究を行わなければならない。それまでの当面のエネルギーの確保は、産業用として石炭と石油をベストミックスした火力発電と LNG 発電、住宅用としてごみ焼却場の排熱発電、太陽光発電、燃料電池などによるべきである。これらを推進するためには、偽装環境論の呪縛からの解放も必要となる。風車は、美しくないし、恐怖感があるので好きになれない。

最近、めっきりメディアに接する機会が多くなった。新聞や TV のニュース、解説、震災特集などを欠かさず見る。原発の注水に外国製のコンクリートポンプ車が活躍しているが、それを見て「何故、このようないいものが日本にないの？」と非難する程度の悪いコメンテーターがいる。重量オーバーで道路を走行できないことも知らない。また、各メディアで報道管制をしているかのような根拠を示さず不親切な情報が多くなったことも不信感を募らせる。こんなものを見せつけられると、メディア各社が談合をしているのではないかと疑いたくもなる。震災復興に向けて、戦後の復興と同じように国と建設業界の総力を挙げた対応に期待しなければならない。しかし、メディアの身勝手な非難報道によって、復興に水を差すような事態になってはならない。

## ■ 平成 23 年 11 月 1 日

その日暮らしを始めて 1 年半が経過した。年金と週三日の大学講師の収入しかないけれど、何とか三食を喰って、スポーツクラブの鳥籠の中で球を打って体力を維持する生活をしている。いまさら目標なんかないから、自分から仕事を求めて積極的に働きかけもしない。それでも後輩から大学の非常勤講師のお声がかかり、何とか芋焼酎のお湯割りを欠かさず飲めるような余裕もできた。後輩とは、ありがたいものである。

若い学生と接する機会を与えてくれたから、講義に当たっては最大限の努力を払っている。特に新しい資料はないが、今までに蓄積してきた資料の中から自分のこれまでの経験を踏まえ、学生に最善のものを選択する。若い時のように新しい知識や体力も必要としないし、年寄りの知恵だけを若者に伝授できることが嬉しい。

「働かないアリに意義がある」という進化生物学者の著書がある。そこでは、若いアリは内勤で、そのほとんどがその日暮らしらしい。年老いたアリは外に出て過酷な業務に従事して死んでいくという。人の世とは全く逆であることを知り、複雑な気持ちだが何となく納得している。

「最近の学生の学力低下は著しい」ということをよく聞くけれど、それは年寄りのやっかみである。学生の個々の潜在能力は確実に進化している。知識と外見だけで人を評価することに何の疑問を持っていない。世の中の進歩とのギャップに気づいていない人や、そしてことごとく社会性に欠ける教育者が多いのが問題である。学生は、スマートホンを駆使してカスタマイズされた情報を入手する。一方、先進国と言われながら情報機器に接しない老人も多くなった。老害と言われないうちに粛々と退散するのも世のためである。

## ■ 平成 23 年 12 月 1 日

現在の日本は国家の体をなしていない。政治家は、嘘を言い、姑息で陰険な言動、閣僚の無知ははなはだしく、あげくの果てには自己を正当化する。いま世界から批判されている一部の無政府組織や団体のほうがまだましである。グローバル化の名のもとに、TPP の参画や ISO などにやけに頑張る人がいるけれど、東日本大震災をはじめ、毎年起こる災害、社会基盤整備、社会格差、社会保障、安全保障、食料、エネルギーおよび教育など国内でまだまだおろそかになっている問題が多くあることを認識すべきである。

東日本大震災後の約半年後に陸前高田を訪問したが、復旧はほとんどされていなかった。これは、行政が国の補正予算の成立をまたずに、みきり執行する勇気がなかったことが原因である。私が 7 年間住んだ山陰地方の社会基盤整備は極めて遅れている。島根県は、日本の文明の発祥の地であり、資源の供給、国土保全のためにも重要な役割を担っている。このような多くの地域の基盤整備も急務である。経済や社会格差問題も、欧米志向の経済アニマルと無能な政治家によってゆがめられてしまった。こんな状況で日本が世界に貢献する余裕はない。

昭和 38 年に炭鉱の野球部に就職した高校球児がいる。兄、姉の反対をおもいきり振り切ってわがままを押し通して社会人野球部に就職した。その後、国の炭鉱切捨て政策のために野球部は解散してしまった。18 歳の野球少年は、日本のエネルギー政策の犠牲者となってしまった。

東日本大震災では福島原子力発電所が甚大な被害を受けた。250 キロメートル離れた自宅の放射線量は 0.14 マイクロシーベルトである。これは東京都の定点測定値の 2 倍である。エネルギーの効率化の経済社会で生きてきたものとして複雑な心境である。昨年現役を引退して、今はその日暮らしの生活である。年金減額、増税なども気になるようになった。とかく人の世は住みにくい。

## ■ 平成 23 年 12 月 8 日

「何でお前は逃げなかったのだよ！馬鹿野郎！」。これは、親しい友人が亡くなった時によく聞く言葉である。一方、「逃げて生き延びた方々もいる。逆に私の高校の同級生みたいに逃げなかった馬鹿なやつがいる。」と述べた震災復興大臣がメディアで批判を浴びたのはつい最近である。政治不信から大臣の発言を支持する

気にはならないけれど、いずれの言葉も友人に対する愛情の深さを感じとれるのではないだろうか。

国会もメディアもいつのまにか「馬鹿なやつ」発言を封印してしまった。今度は、基地移転や日米地位協定問題で防衛局長や防衛大臣が批判を浴びている。それぞれの言動は、それのみで判断すれば確かに適切ではないだろう。しかし、それを批判しているのは、文系出身の政治家とメディア人である。知識人と言われるなら、我欲ばかりを主張しないで、敗戦による膨大な賠償責任を課せられることを直視するとともに、日本に降りかかるあらゆるストレス回避について真面目に議論してもらいたいものである。

地球はあと 45 億年で消滅するという。しかし、今回のような東日本大震災を受けるとその寿命は極めて短命になるかもしれない。それは、社会基盤をはじめ、エネルギー、食糧、放射能などによって制約を受ける。最近、理系指向の学生が極めて少なくなっているけれど、地球延命のためには文系を主体とする政治や経済学の呪縛から解放されなければならない。

科学技術はある境界条件では正しいけれど、仮定した条件以外では人々の予想に反する不適切な現象が生じる。そのようなことを全く理解しない文系出身の政治家や経済学者が現在の日本社会を牛耳っている。政治・経済・宗教など文系に属する組織は、しばしば人類を不幸にしてきたし、科学技術の発展には何ら寄与しない。グローバル化、ISO、TPP などに頑張る人がいるけれど、自国の能力と、伝統・文化・社会基盤などを十分認識して余裕を持って対応して頂きたい。もう、欧米かぶれの論理の押し売りは御免である。生物進化論を否定する社会とも共存できない。